

# オーストラリア研修報告

令和7年8月16日～8月24日 ブリスベン



目的

- 01 英語力を高める
- 02 オーストラリアの文化を学ぶ
- 03 自己成長と社会性の向上
- 04 国際感覚を身につけ、未来への意識を高める

ブリスベンでは、午前中に、語学学校のアクティビティに参加したり、現地校を訪問しました。また、午後は毎日、語学学校で英語を学びました。

8月のブリスベンは、大変過ごしやすい気候で半袖から長袖まで町中を歩く人々の服装は様々でした。



## 全体日程

月日	内容
8月16日(土)	中部国際空港発 シンガポール経由 ブリスベン空港へ
8月17日(日)	ブリスベン空港到着 ホストファミリーと対面
8月18日(月)	午前 市内散策 午後 SPC語学学校にて授業
8月19日(火)	午前 クイーンズランド州立博物館 午後 SPC語学学校にて授業
8月20日(水)	午前 SPC語学学校にて授業 午後 ロンバイン(動物園)見学
8月21日(木)	午前 現地校訪問 午後 語学学校にて授業
8月22日(金)	午前 市内観光・お買い物 午後 語学学校にて授業
8月23日(土)	ブリスベン空港からシンガポール経由
8月24日(日)	中部国際空港到着

August 17



ホストファミリーとの初対面の前に SPC 語学学校スタッフからレクチャーを受けました。@ブリスベン空港



Morning Activities August 18th

# Discover Street Art

市内散策



最初のアクティビティは「Discover Street Art」でした。ブリスベン市内のマップを渡され、グループで町中にある7つのアートを探しました。ブリスベン市内は町の至る所にアートがあふれており、建物の壁や看板にとっても印象的な絵が描かれていました。

このアクティビティを通じて、市内の雰囲気を感じることができ、語学学校周辺およびブリスベン市街の位置関係も理解できました。また、日本の他の地域から参加している高校生とも一緒に活動を始められました。



Morning Activities August 19th

# クイーンズランド博物館



8月19日にはクイーンズランド博物館に行きました。博物館では、昆虫・甲殻類・魚類・哺乳類・爬虫類など多種多様な生物の標本が保管されており、オーストラリアに生息する生物について学ぶことができました。

この博物館には生物だけでなく、オーストラリアの文化的・歴史的遺産も多数展示されています。私たちが知らなかったオーストラリアの民族や社会の成り立ちや変化についても学ぶことができ、非常に貴重な体験でした。そして、この博物館の入場料が観光客を含め全ての人に無料であることにも驚きました。



## Morning Activities August20

### ローンパイン・コアラ・サンクチュアリ



8月20日にはブリスベン郊外にあるローンパイン・コアラ・サンクチュアリに行きました。ここは世界最古・最大級のコアラ保護施設のひとつです。園内には100頭以上のコアラや、カンガルー、ワラビ、タスマニアデビル、エミュー、カモノハシなど多くのオーストラリア動物が飼育されています。



### カンガルー



# コアラ



私が一番印象に残ったのはコアラとの触れ合いです。こんなに近くでコアラを見たことはなく、その可愛さに感動しました。コアラに触れるのは初めてでしたが、思っていた以上に毛がふわふわしていて、とても癒やされました。

2024年まではコアラを抱っこする「コアラ・ホールディング」が提供されていたそうですが、コアラへのストレスや来園者のニーズの変化に対応し、現在は「近くで見る・触れ合う」体験に切り替わっています。

研修をきっかけに調べてみると、コアラの数は年々減少していることが分かりました。コアラは特にオーストラリアの特定の州で生息数が減少しており、保護活動の重要性が高まっています。原因はいくつかあります。都市開発や森林伐採によってユーカリの森が失われ、生きる場所がどんどん狭くなっていること、気候変動によって大規模な山火事や干ばつが増えていること、病気や交通事故といった問題もあります。

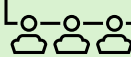
山火事によってユーカリの木が焼けてしまうと、食べ物だけでなく巣や安全な寝床も失われます。また、干ばつが続くことでユーカリの葉の栄養価が低下し、コアラの健康にも悪影響を与えています。これらの要因がコアラの未来を不安定にしているのです。

絶滅危惧種としての現状を知り、人間の行動が遠く離れた場所の生き物にまで影響を与えていることを強く感じました。遠く離れた私たちの生活とも深くつながっていると実感しました。便利さや快適さを求める生活の影響が、自然や動物たちの生存にまで及んでいるのです。

世界の幸せとは人間だけのものではなく、自然や動物の幸せと深く結びついていると強く感じました。自然が豊かであり、動物が安心して暮らせる環境があってこそ、人間も安心して未来を描くことができるのだと思います。目の前の便利さだけでなく、自然や生き物と共に生きる未来を意識し、小さな行動を積み重ねることが、私たちにできる大切な一歩だと思います。

## What We Learned

### 課題研究



### Living in Harmony: Food, Nature, and Culture in Australia (オーストラリアのくらしと共生)

15 陸の豊かさも守ろう



13 気候変動に具体的な対策を



# 現地校交流

August 21



**The Lakes Collage**  
小さな子どもから高校生までが同じキャンパスで学んでおり、学校全体がとてもにぎやかで楽しい雰囲気でした。おままと一緒に遊ぶことから始まり、ICTを活用した授業への参加や、調理実習、音楽、技術などさまざまな授業を見学することができました。皆さんとてもフレンドリーで、充実した時間を過ごせました！



What We Learned

課題研究

Social Media Regulations and Young People's Voices (SNS規制と若者の声)

16歳未満の子どもはSNS利用禁止



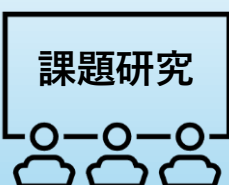
賛成!!



オーストラリア政府は 2025 年 12 月 10 日から、16 歳未満の子どもが SNS (ソーシャルメディア) を利用することを禁止する法律を施行しました。これは世界で初めての大規模な「年齢制限付き SNS 禁止法」です。対象となるプラットフォームは、TikTok、Instagram、Facebook、X、YouTube など主要 SNS です。SNS 運営会社に対して違反した場合は大きな罰金 (日本円で約 50 億円) も科される可能性があります。違反者への制裁は企業が中心であり、保護者や子ども自身への罰則はありません。

施行前の 8 月にオーストラリア現地で、教師や生徒に SNS 規制について質問してみました。どちらの回答も「法律に賛成」と答えてくれました。SNS の危険性について話してくれ、その答えを聞いて、SNS での犯罪が世界中で起きていることと対策の重要性を再認識しました。

What We Learned



現地校との交流

## School Life Differences (学校生活の違い)

Q1. What do you usually do after school ?

Q2. What do you think is fun in school life?



放課後は、友だちと遊んだり、宿題をしたりして過ごしているようです。そして、学校生活で楽しいのは「ランチ」とインタビューで答えてくれました。日本の生徒と同じだな、と感じました。今回の学校訪問は、私にとってとても貴重で楽しい経験でした。



# Afternoon English Lessons

# アボリジナルアートの紙皿



アボリジニ（原住民）について  
オーストラリアの動物について  
宝探しゲーム  
お買い物ゲーム  
Touch & Get（コップ取り）ゲーム



語学学校の授業は、ゲームなどを通して、オーストラリアの歴史から地理まで楽しく学びました。毎日、語学学校で食べるためにホストファミリーが用意してくれるランチ（お弁当）を楽しみにしていました。



# Homestay Experience



**What We Learned**

課題研究  
 Living in Harmony: Food, Nature, and Culture in Australia  
 (オーストラリアのくらしと共生)

**6** 安全な水とトイレ  
を世界中に

**7** エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



現地に到着して家に向かう前、語学学校の先生からオーストラリアでの過ごし方やルールについて説明を受けました。その中で特に印象に残ったのは、「シャワーは1人5分まで」という話です。ホームステイ先の家でも同じように、家のルールとしてシャワーの制限について言われました。そのとき、オーストラリアは日本よりも「節水」を強く意識していることに気がきました。

なぜオーストラリアではこれほどまでに節水にこだわるのか調べてみたところ、理由はシンプルでした。オーストラリア大陸は世界でも特に乾燥した地域であり、シドニーやブリスベンなどの大都市では人口増加によって水の需要も高まっています。そのため、オーストラリアでは政府や家庭が積極的に節水に取り組んでいます。例えば、政府は雨水をためるタンクの設置を進めており、家庭ではシャワーの時間を短くするなどのルールが一般的です。オーストラリアでは、一人ひとりの小さな努力が国全体の節水につながっています。オーストラリア研修を通して、日本が持続可能な社会を作るためには、まだまだやるべきことがたくさんあると実感しました。

私がお世話になったのは、ホストマザーとホストファザーの2人家族でした。お二人ともとても優しく、私たちが安心して過ごせるように、毎日色々と気を配ってくださいました。毎晩、ホストマザーとホストファザーが手料理を作ってくれました。日本とは違う味付けや料理も多く、文化を“食”から感じる事ができる良い体験になりました。



ホストファミリーと話して苦労したことは、最初のうちは英語が聞き取れなかったことです。楽しかったことは、英語で話が通じたことや、話している内容が理解できたときです。今回のホームステイを通して、英語力だけでなく、自分から積極的にコミュニケーションを取る姿勢の大切さを学びました。

オーストラリア滞在について、僕を不安にさせていたのは言葉の壁だけでなく、自分が知る限りのネガティブな情報を信じて疑わなかったからです。例えば「食事がまずい」「水道水が飲めない」「治安がよくない」など、「日本の方が良い国だ」と思い込んでいました。改めて考えてみると、僕は周りとの調和や同調を大切にする典型的な日本人気質で、実際を知らないまま異なる文化や習慣に違和感や偏見を持っていたのだと思います。

ホームステイが始まって、ホストファミリーはフィリピン出身の移民で、オーストラリア在住歴 20 年以上、同居人にニュージーランド人の友人を含めた 3 人暮らしという、ユニークな家族の形でした。異国の地で、見知らぬ家庭に滞在するには、人間関係を構築しなければ生きていけない!あらゆる手段で言葉の壁を乗り越えなければ!と本能が僕に命じたのがわかりました。ホストファミリーと打ち解けようときっかけを見つけては話かけ、不器用な英語で必死に自己開示をしました。しかしホストファザーが「日本人のことではなく、あなた自身のことを教えてほしい」と僕に言いました。僕は自己紹介をしているつもりでも、実際は「日本人は〇〇。オーストラリア人はどうですか?」という表現をし、相手を尊重するために、自己主張を控えめにするという日本人の美德とする姿勢が前面に出ていたのだとハッとしました。自分の考えや個性を表現していなかったことに気付きました。この経験から、日本人である自分を自覚しつつも、「自分」という個の存在を理解してもらいたい、またホストファミリーや現地の人々を理解したいという思いでコミュニケーションの時間をより大切にしました。

オーストラリアでの一週間の滞在はあっという間でしたが、かけがえのない人生の時間だったと心から言えます。本来の目的である語学面での成長はわずかかもしれませんが、それ以上にたくさんの人と交流し、日本では得難い人々の温もりや心の交流を経験でき、心の財産が増えました。自分が見て触れて経験して得たこの感情や思いこそが「根拠ある情報」であり、これまで抱いていた偏見を打ち消すことにつながりました。これからは、自分で知る努力や正しい情報を得る力を養うことが大切だと思います。

Thank you for everything!



今回のオーストラリア海外研修を通して、語学力の向上や異文化理解だけでなく、自分自身の考えや価値観を見つめ直す貴重な経験を得ることができました。最初は緊張と不安から始まった研修でしたが、ホストファミリーと接していくうちに緊張も解け、オーストラリアの生活にも慣れていきました。多様な人々と出会い、現地の生活や文化に触れることで、これまでの先入観や偏見を乗り越え、視野が大きく広がったと感じています。日本に帰るときには、全員が帰りたくなくなるほどオーストラリアが好きになりました。

December 3

## 原山小学校へ英語出前授業に行ってきました！



学校ではいつも授業を受ける側でしたが、先生になって教えるという経験は今回が初めてでした。いよいよ本番が始まり、みんなで最初にダンスを踊りました。知っている曲だったようで、多くの子どもたちがとても楽しそうに踊ってくれて、その様子を見て私も緊張がほぐれました。その後も、私たちが考えたゲームをみんなが楽しんでくれて、本当に嬉しかったです。とても貴重な経験ができて楽しかったです。それと同時に、何かを教えることがこんなに大変なんだと実感しました。この経験を通して自分の視野が本当に広がったと感じていますし、参加して本当によかったと思います。



英語で遊ぼう！  
～体を使ったアクティビティ  
で英語に親しむ～

ケーブルTVの取材を受けました。



事前・事後指導を含めこの海外研修で得た学びや気づき、そして出会った方々とのつながりを大切に、今後も積極的に行動していきたいと思えます。これらを学ぶことができたのは、同窓会や家族の支援があったからだと思えます。本当にありがとうございました。皆さんもぜひ自分の目で世界を見て、新しい発見や成長の機会をつかんでください。

